

二〇二四年度

山梨英和大学

一般選抜A日程試験問題

国語

注意

- 一 問題用紙解答用紙の冊子は、試験開始の合図があるまで開けないで下さい。
- 二 試験開始直後に次のことを確かめ、解答用紙を冊子からはずして使用して下さい。
 - ア 問題用紙は表紙を除いて四枚です。ページの順番も確認して下さい。
 - イ 解答用紙は、一枚です。
- 三 受験番号は、解答用紙に記入して下さい。氏名は書いてはいけません。
- 四 答えは解答用紙に記入して下さい。
- 五 問題用紙は、試験終了後、各自持ち帰して下さい。

国語

次の問題文を読んで、後の問に答えなさい。

ネットの発達も相まって、若者世代では人間関係の希薄化が進んでいる――。近年は、そんなシテキも^①しばしば耳にする。

しかし、実際に彼らに声をかけてみれば、意外と付き合いの良いことに気づかれるだろう。

統計数理研究所が実施している「日本人の国民性」調査の最新データによると、「上役と仕事以外のつき合いはあつた方がよい」と考える者の割合は若年層ほど高く、20代ではじつに70%を占める。

「へⅠ」な雰囲気のある会社にとめたい」と考える者も同様の傾向を示しており、20代の50%がそう思うと回答している。

(a)、彼らのコミュニケーション様式が上の世代と異なっていることにはリユウイして^②おくべきである。おそらく現在40代から上の世代は、濃密な関係を取り結ぶためには相手のことをへⅡに理解しておかなければならないと考えるだろう。

しかし、下の世代は違う。当面の付き合いにとって必要な情報だけを共有できていれば、それで十分に濃密な関係を築くことができると考える。いわば全面総括型ではなく、一極集中型のコミュニケーション様式へと^③へンボウしている。

このような違いが生じているのは、サツコンの^④日本では人間関係の流動性が高まっており、その最前線にいるのが若年層だからである。かつて人間関係がへⅢに^⑤だった時代には、人々は親密な相手とイヤオウなく全人的に付き合わざるをえなかった。

しかし、流動性が高まってくると、その前提は崩れ去っていく。各々の局面で付き合い手を切り替えることが容易なため、その場面で必要とされる情報だけで十分に親密な関係が成立しうると感じられるのである。

上の世代から眺めたとき、若年層の人間関係が希薄化しているように映るのは、おそらくこの感覚の相違によるところが大きい。総合的な関わり合いを前提として^Aいると、部分的につな^Aがっている関係はどうしても希薄なものに見えてしまう。

しかし、そもそもアイデンティティが()変()動の一貫したものではなく、場面ごとに切り替わるへCに^Bなものになっているとすれば、現在とは違う場面における自分を目前の相手にあえて呈示しない

ことは、その相手に対してむしろ誠実な態度といえなくもない。そんなものを^あ顕わにされても、相手は戸惑う

ただだからである。

(b)、人間関係の流動性が高まったという事実は、それだけ制度的な枠組みが拘束力を失っていることを意味する。^D

裏を返せば、制度的な枠組みが人間関係を保証してくれる共通の基盤ではなくなり、それだけ関係が不安定になってきたということでもある。

⑥ キソンの制度に縛られることなく、付き合う相手を勝手に選べる自由は、自分だけでなく相手も持っている。

関係の自由度の高まりは、自分が相手から選んでもらえないかもしれないリスクの高まりとセットなのである。

※ 冒頭で紹介した「個人的であること」が忌避される理由も、じつはここにある。^E

「個人的であること」は、組織からの解放を求めるには好都合だが、組織への包摂を求めるには不都合である。

自分の安定した居場所が揺らぎかねないからである。

今日の若者たちは、かつてのように社会組織によって強制された鬱陶しい人間関係から解放されることを願っている。^F うのではなく、その拘束力が緩んで流動性が増したがゆえに不安定化した人間関係へ安全に包摂されることを願っている。^G

(c)、前者が後者へと完全に入れ替わったわけではないが、少なくともその比重は大きく移り変わっている。

かつて人間関係が不自由だった時代の若者たちは、強制された関係に縛られない「一匹狼」に人間的な魅力を感じて憧れたものだった。

(d)、今日の若者たちは、一人である人間を「ぼっち」と呼んで蔑みの対象とすようになっていく。^H 一人でいることは関係からの解放ではなく、むしろ疎外を意味するからである。

キソンの社会制度の束縛から解放され、自由な関係を築けるようになったのに、それでも一人でいる者は、誰からも選ばれない人間的魅力を欠いた人物とみなされ、^I Ⅳ に捉えられてしまう。

逆にいえば、(H)に恵まれているという事実こそが、人間的魅力を示す重要な指標となっている。それを端的に示しているのが「リア充」という言葉である。

一人ぼっちでも充実していることを意味する「ぼっち充」という言葉があるのも事実である。しかし、それも「リア充」な人たちに対する反発という感がぬぐえない。あるいは、「ぼっち」回避のヒヘイ感からくる反動といえなくもない。^J

かつてと比較すれば、現在の日本は確かに一人でも生活しやすい社会になった。しかし、そうやって人間関係のしがらみから解放され、自由度の高い社会になったからこそ、つねに誰かにつながっていないければ逆に安心できなくなっている。

それを欠いた人間は、価値のない人物と周囲から見られはしないかと他者の視線に怯え、また自身でも価値

のない人間ではないかと不安に慄くようになっていく。その意味で、じつは今日は、皮肉なことに一人で生きていくことがかつて以上に困難な時代なのである。

日本能率協会が実施している新入社員意識調査には、理想の上司像を尋ねた設問がある。その近年の回答を見ると、仕事について丁寧な指導をする上司の人气が高く、仕事を任せて見守る上司の人气は低い。

ところが現在の上司に同じ質問をすると、まったく逆の回答が得られる。おそらく現在の上司は、かつて自分たちが若かった頃に、上司を鬱陶しい存在と感じていたからだろう。

ここに世代間の意識の大きなギャップがある。端的にいえば、今日の若者には、上司や仲間から「見られて

いるかもしれない不満」よりも、「見られていないかもしれない不安」のほうが強いのである。
社会的動物である人間は、他者からの承認によって自己肯定感を育み、維持していく存在である。その機序は昔も今も変わらないだろう。

ただし、へVへであることが憧れでありえた時代に私たちに強力な承認を与えていたのは、社会的な理想や信念といったいわば抽象的な他者だった。その評価の基準は普遍的で安定しており、いったん内面化された後は人生の羅針盤として機能しえた。

それに対して今日では、社会が後景化して抽象的な他者のリアリティが失われた結果、身近な周囲にいる具体的他者の評価が前面にせり出している。しかもその評価の基準は、場の空気次第で大きく揺れ動いてしまう。そのため都度ごとに相手の反応を探りあわなければならなくなっている。

今日の若者たちがゆとり世代と呼ばれ、その生き方が生ぬるいと批判される理由もここにある。確かにこの世代の人たちは、がつがつとしたハングリーな生き方を「意識高い系」や「ガチ勢」と呼んで揶揄したりする。

しかしそれは、一人だけが頑張っただけで周囲から浮いてしまうと、コミュニケーション能力の欠如した空気が読めない人物と看做されかねないからである。逆に言えば、みんなが一緒に頑張っているときに一人だけタ

なのも、今日ではかつて以上に嫌われる。

「そんなことやってられねえよ」と、斜に構えた態度が不良的で格好よく見えた時代もあったが、今日ではまったく事情が異なっている。優等生が増えたように見えるのもそのためである。良くも悪くも周囲から目立つことは、自分の居場所を不安定にすることであり、ともかく法度なのである。

ゆとり世代の若者たちは、やる気の足りない人間というわけではなく、人間関係に対して過剰なほど気遣い

を示す人々だと考えたほうがよい。「個性的であること」が忌避されるとしても、周囲から承認されるための自己有用感はいかに強く求め合っている。

(e)、チーム全体でやる気を出し、創造力を発揮するのはむしろOKだといえる。事実、クールジャパンとして世界に誇る日本発のコンテンツの多くは、若者たちがチームを組んで共同作業で生み出したものであることを想起すべきである。

職場の中でゆとり世代の若者たちと向き合う上司の方々には、そんな彼らの心情を察しつつ接するべきだろう。それが感性の豊かな彼らの創造力をうまく活かす道であり、企業の業績アップにもつながっていくはずである。彼らの生きてきた環境に想像力を巡らせることなく、ただ単に憂えてみせているだけでは、新旧どちらの世代にとっても、したがって今後の日本社会にとっても、結局は不幸な結果に陥ってしまいかねない。そのことは肝に銘じておいたほうがよい。

※ 冒頭で紹介した……「**個性的だね**」は差別語なのか? という冒頭部分の一節は省略している。

※ 機序………物事が動いたり成り立っていたりすることの背景にある仕組み。機構。メカニズムのこと。

(土井隆義「いまの若者たちに取って『個性的』とは否定の言葉である」)

問一 傍線部①～⑩のカタカナは漢字に直し、漢字には読みをつけなさい。

問二 空欄(a)～(e)に当てはまる最も適切な接続語を、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア だから イ そして ウ もっとも エ ところで オ やはり
カ もちろん キ さらに ク したがって ケ やがて コ しかし

問三 空欄Ⅰ～Ⅴに当てはまる最も適切な語句を、次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 固定的 イ 流動的 ウ 個性的 エ 一般的 オ 家族的
カ 社会的 キ 部分的 ク 総体的 ケ 否定的 コ 肯定的

問四 傍線部Aと同じ意味で使用されている一連の表現を本文中か二十字以内で抜き出さなさい。

問五 傍線部Bの二箇所空欄部分に共通して当てはまる漢字を一字答えなさい。

問六 空欄へC～に当てはまる最も適切な四字熟語を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 千変万化 イ 変幻自在 ウ 自由自在 エ 万物流転 オ 融通無碍

問七 傍線部Dにある、「拘束力を持った制度的な枠組み」と同じ意味の最も適切なキーワードを本文中から抜き出して答えなさい。

問八 傍線部E「忌避される」、F「鬱陶しい」、I「揶揄」、J「斜に構えた態度」、K「ご法度」、それぞれの意味について簡単に説明しなさい。

問九 傍線部Gとはどういうことか、筆者の主張を踏まえた上で、百字程度で説明しなさい。

問 十 空欄（H）に当てはまる最も適切な語句を本文中から抜き出して答えなさい。

問 十一 傍線部Iとはどういった環境なのか、本文の内容を踏まえて百字程度でまとめなさい。